

## // 救急車を呼ぶ前に、知っておいてほしいこと //

### 1. 相談できるところ

#### かかりつけ医を持ちましょう

まずは、かかりつけ医を持ち、その医師に相談しましょう。  
これまでにかかった病気や、飲んでいる薬のこと等、普段から相談していれば、困ったときも電話で適切なアドバイスをもらえます。



#### 救急医療案内を活用しましょう

夜間や祝日等で、かかりつけ医に相談できない場合、救急車を呼んだほうがいいのか、どこに行けばいいのか、迷ったときは、相談窓口(13ページ参照)を活用してください。



### 2. 救急車で運ばれたときの診察

救急車で病院へ運ばれても、優先的に診察されるわけではなく、症状によっては、他の外来患者と同様に、受付順で診察されます。

### 3. 医療機関までの移動

できるだけ家族や友人等、身近にいる人に依頼してください。  
福祉タクシーや民間救急の救急車等、緊急性を必要としない傷病者を搬送するサービス(有料)もあります。

### 4. 応急手当を学ぶ

現場にいる人が、応急手当をしてください。  
あなたの大事な人や、目の前の傷病者に、応急手当ができるよう、応急手当の知識と技術を学んでおきましょう。

消防署で普通救命講習(応急手当講習)を受けましょう。

年4回(3月、6月、9月、12月)実施しています。

問合せ先：津島市消防署 消防グループ 電話番号 0567-23-0119



## // 救急車を呼んだあとに、必要なこと //

### 1. 救急車の到着が早くなること

救急車のサイレンが聞こえたら、通りに出て、案内してください。  
到着が早くなります。



★傷病者の意識がない場合や交通量の多い場所等、通報内容から救急隊の活動を支援するため、消防自動車も出動します。

#### サイレンについて

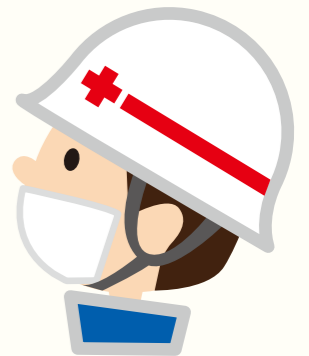
救急車や消防車は、赤色灯をつけ、サイレンを鳴らして走行するように義務付けられています。

「サイレンを鳴らさないで来てほしい!」という人がいますが、鳴らさないで走行することはできません。現場近くへ行き、場所の確認ができればサイレンを止めますので、ご理解ください。

### 2. 救急車が到着したら、伝えること



- ・具合が悪くなった経緯
- ・具合の悪い方の情報(持病、かかりつけ医、普段飲んでいる薬、医師の指示等)
- ・応急手当をしたときは、その内容
- ・事故を目撃したときは、その状況



### 3. 救急車が来る前に、準備しておくもの

- ・保険証・診察券
- ・お金
- ・靴
- ・普段飲んでいる薬(お薬手帳)
- ・「わが家の救急情報メモ」(うら表紙)
- ・救急あんしん君(\*)



#### 乳幼児の場合

- ・母子健康手帳
- ・紙おむつ
- ・ほ乳瓶
- ・タオル



(\*)救急あんしん君・・・津島市では、65歳以上のひとり暮らしの方に、配布されています。  
持病や連絡先を書いた紙をカプセルに入れて、冷蔵庫に保管していただくことで、かけつけた救急隊員が必要な情報を知ることができます。